乙貞

第7号　（通巻第2巻第1号）

1982年　7月31日発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎　0775（85）4397

〒524－02
守山市服部町13-18番地

暑中お見舞い申し上げます。

快適な季節も過ぎ、連日不快指数は大きな数値を示しています。

通常、埋蔵文化財の発掘調査は土を掘るものです。雨が降れば、水がたまる。これ当りまえのことですが、雨が降ることにより排水に時間を費やしてしまうので、雨の天気予報を忌みきらい、そして晴天が続くと、炎天下での作業に疲労感をおぼえ、青空に浮ぶ小さな雨雲にも雨を熱望します。

降ってほしい時に降らず、晴れてほしい時に降る雨…　そんな自然にグチをこぼす調査に携わる者の心、どちらが「お天気」かわからないように思われます。

とにかく、「お天気」と「お天気屋」とが意気投合し、仲よくやっていきたいと思う毎日です。

刊行図書のお知らせ

「守山市遺跡分布調査報告書」
「三津川遺跡調査報告書」
「吉身西遺跡発掘調査報告書」
「服部遺跡発掘調査概報」
「益須寺関連遺跡発掘調査報告書」
「吉身南遺跡発掘調査報告書」
「吉身南・古高遺跡発掘調査報告書」
「守山往来」
「続・守山往来」

以上の図書が刊行されています。郷土の歴史に興味がある方は、一度読まれて如何でしょう。当センターで、取り扱っています。

調査だより

うだるような暑さの毎日ですが、職員はじめ調査員、作業員一丸となって現地調査に精を出しています。今年は梅雨入り後、好天に恵まれ、調査も順調に進行しています。天気だけでなく、調査地附近の皆様の御協力のおかげと感謝しています。

春以降の発掘調査について、簡単に報告したいとおもいます。

1．　吉身南遺跡

3月15日より4月2日まで発掘調査した面積約800平米の調査地です。場所は浮気町中ノ町300－15番地先で、守山駅東口の附近です。

通常の４倍の床面積をもつ竪穴式住居（吉身南遺跡）

近年２度にわたり、隣接地を調査し、古墳時代の集落跡を検出しましたが、その集落の広がりを知るうえにおいて、たいへん興味がもたれていたところでもあります。

一部で新聞報道され、御存知かとおもいますが、面積にして、通常の４倍の広さの「集会所」の性格をもつとおもわれる竪穴住居の跡などが検出されています。過去２度の調査において検出された集落跡と関連するもので、今後の研究の成果が期待されています。

２．　伊勢遺跡

４月１２日から２６日にかけての調査で、伊勢町の国鉄線路沿いの水田地から中世の井戸跡などの遺構と弥生時代後期の竪穴式住居の跡を検出しました。

遺構の検出に伴ない、多数の土器も出土しています。この土器につきましては、現在整理作業中で、近々当センターのホールに展示されるものとおもいます。

５角形状の竪穴式住居（伊勢遺跡）

３．吉身南遺跡

１の調査地と道路を隔てた面積約１００００平米の広大な調査地です。４月より調査を開始しましたが、現在もなお調査中です。当地は以前練瓦工場であった

ので、かなりの部分が、建物の基礎工事などにより破壊されてはいますが、古墳時代の住居の跡などの遺構、それに伴出する遺物を多く検出しています。

今回の調査により、吉身南遺跡の全容をさらに詳しくとらえられることだろうとおもいます。

4．　大門遺跡

7月5日より20日まで、店舗建設に先立ち調査しました。面積約500平米の水田地で、約50m 西方に、一昨年調査した都市計画道路が位置します。

ここからは、溝跡、土こうなどを検出しました。時期の想定材料になります遺物の出土が若干乏しく、詳細は次号以後の「乙貞」の紙面をさきたいとおもいます。

5．　赤野井遺跡

現在発掘調査中ですが、個人住宅建設に先立ち、国庫補助事業として行なっています。

赤野井遺跡とは、赤野井町、石田町、杉江町の三町にまたがる大規模な複合遺跡で、近年数度発掘調査され、多大な成果をおさめています。

この調査報告も、次号の「乙貞」で行ないたいとおもいます。

＝＝＝＝＝＝＝＝今後の調査予定＝＝＝＝＝＝＝＝

夏季の調査の予定として、2箇所が具体化しています。1箇所は小島遺跡で河西小学校を調査します。もう1箇所は大門遺跡で、個人住宅建設用地の調査です。開始時期は現行の2遺跡の調査の進行状況と相関するため、なお流動的です。小島遺跡には弥生時代および中世の遺構が、大門遺跡には中世の集落跡が埋蔵されている可能性が大きいと考えられています。

機会がありましたら、調査現場の方へも気軽にお越し下さい。

::::::::::　現在の整理作業　::::::::::

発掘調査によって得た資料（遺構などの実測図や遺物）を、詳しくまとめ上げる作業を整理作業と呼んでいます。現地での調査ではできない、きめのこまかい作業で、遺構、遺物を包括的にとらえ研究したり、また得た資料を今後永く保存、展示するための作業や報告書の作成の作業なども行ないます。

具体的には、実測図（平面図、たい積図や高低を記した図など）をまとめ立体的に整理したり、遺物については、洗浄やこわれないための処理を施します。また可能ならば、使用されていた時の状態を考え、復元作業も行ないます。下の図のような、遺物を詳細に図化（実測図といいます。）する作業も多くの時間が費やされます。

現在、下記の遺跡の整理作業を当センターで行なっています。

○　服部遺跡　（昭和49年10月～4月、50年4月～51年3月、51年7月～11月、53年3月～54年3月に調査）

○　川中遺跡　（昭和５６年２月～８月に調査）
○　伊勢遺跡　（昭和５７年４月に調査）

縮尺された服部遺跡の土器実測図

::::::::::::::　特別展のお知らせ　::::::::::::::

夏季特別展を８月１６日（月）～２３日（月）まで開催します。

春季特別展をゴールデンウイークに合せ開催しましたところ、約８００人の見学者がありました。過去５回の特別展では、展示スペースが一階ホールだけという制約の中で、パネル展示なども取り入れて、わかりやすい充実した特別展にしようと努力してきました。回をおうごとに内容のあるものになってきたと自負していますが、さらに魅力的な特別展になるように、是非夏季特別展にお越しいただいて、御意見をお聞せ下さい。

編集後記

実際に古代に住んでもいないものが言うことですし、単なる想像なんですけれど、発掘調査に携わってきて、古代の人々やその生活は大変豊かなものではなかったかと思うようになりました。

自然の中にあるものによって一応の生活用品はもちろん、装飾品までもつくりあげています。当時の道具を使った作業は現在にくらべ、非常に効率は悪いだろうけれど、その反面生活の流れには余裕があったのではなかろうかと考えるのです。

もし、生活全体が豊かで余裕のあった古代を、激増する発掘調査に追いまくられている者が調査しているとすれば、それは大きな落差があります。

調査する者が一人一人、当時のような豊かさとゆとりをもって調査すれば、もっと古代を、遺跡を理解できるのではないかと思うのです。

馬耳東風